

東部防災館指定管理候補者選定委員会議事概要

委員	事業展開するにあたり、目標は設定しないのか。 例えば、利用者数、来館者数など。
申請者	初年度は、期間が短いため5万人と見込んでいるが、将来的には、年間10万人以上とすることを目標としてる。
委員	料金設定の案について、県の条例で定めている上限額より低い設定をされている箇所があるが、計画的に設定されたものなのか。 安い料金設定は利用しやすく良いことかもしれないが、一度設定した料金を後に上げるのは難しい部分もあるかと思う。
申請者	周辺の施設の料金を参考にしているほか、全国で実績・経験のあるシンコースポーツの意見も取り入れた上で設定している。 改めて県とも協議しながら検討したい。
委員	指定管理期間を10年としているが、県の指定管理としては最長になると思われる。 事業展開するにあたり、随時、効果の検証は必要と思われるが、仮に、県が中間評価を求めることになった場合、その点、協力して頂けるか。
申請者	県においても監査があったりすると思うので、中間評価や第三者の事業評価について対応させていただく。 また、指定管理者として、独自に、覆面調査員による調査を毎年実施したいと考えている。
委員	連携する飲食店、コンテンツパートナー等は、どのような整理で参画するのか。 利用者の料金は申請者が徴収するのか。
申請者	事業については、我々が知らないところで行われることがないようにし、いわゆるテナント貸しという形でなく、指定管理者が必ず関わって行う事業となる。 料金は、指定管理者の収入として管理し、提携するコンテンツパートナー等に対しては、委託料として支払う形となる。

委員	申請内容について、子どもたち・学童の利用が大きな柱と考えられている。 高齢化社会が進む徳島では、高齢者の方々にも、防災館を利用して頂くことが重要。 学童に循環バスを利用するとあったが、平日の昼間の空いている時間帯に、免許を返納した高齢者等も利用できれば良いと思うが如何か。
申請者	平日に高齢者が参加しやすいイベントや教室（介護予防教室など）を増やしていくことは可能。 また、バスの利用についても、今後、運用開始後に、利用者のニーズを図りながら、高齢者が利用しやすい運行の検討も可能である。
委員	学童保育など、管理業務が多く多岐にわたり大変だと思うが、問題ないか。
申請者	弊社スタッフの中にも業務に関わっているものがおり、コンテンツパートナーのサポート、ノウハウを活用しながら、しっかりと運営していく。
委員	学童保育について、1年目は年度の途中であり、運営が厳しいのでは。
申請者	初年度の収支が厳しいことは、計画において見込んでいます。 英語学童の施設の良さをの皆様にご覧になっていただくように努力し、利用者を増やしていく。
委員	災害発災時の対応は誰が行うのか。
申請者	県と指定管理者が協力しながら防災拠点としての運営を開始する。 今後、県と協議しながら、物資の受入れの体制、準備など、物資輸送拠点としての転換についての具体的な対応について検討していきたい。
委員	保育の有資格者は配置するのか。 また、施設利用者が、一時的に未就学児を預かる場所は設けるのか。 安全を確保できる体制になっているか。
申請者	未就学児を対象とした、保育士免許を有するスタッフ配置については、現在検討中。 3階の学童スペースに未就学児用の預かり場所を確保することは可能。 学童と未就学児が同じ部屋にならないように配慮する必要があると考

	える。
委員	施設の木質化について考えを伺いたい。
申請者	徳島県産材ではないが、キッズスペースのパレット遊具において木材を使ったものとなっている。 また、クラフト教室、ワークショップにおいて、積極的に木材を使ったイベントを検討したい。
委員	防災学習にある「楽しい防災」とは？
申請者	防災に関する必要な知識を楽しみながら、また、スポーツのように競争しながら学べるコンテンツを提供していく。 具体的には、非常食クッキング、防災運動会など、親子でも参加できるようなイベントを開催。
委員	津波浸水の予想の地域であるが、津波対策はどうするのか。
申請者	2 mの浸水予想であるが、防潮扉を設けており、施設内が浸水しないため、物資輸送拠点としての機能は問題ない考える。
委員	危機管理責任者とは。
申請者	指揮命令ができる責任者であり、防災に関する経験、知識があるもの、また、必要に応じて防災士の資格をもったものを検討したい。
	委員長まとめ 審査の結果、東部防災館の指定管理候補者として、ジオグラフィックデザイン・シンコースポーツ四国共同事業体を選定する。